



プレスリリース

一般社団法人日本原子力学会

日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の広範囲にわたる**学術・技術専門家集団として社会への情報提供を行うため**、本会の主要な活動等について、随時プレスリリースを行っています。
今回は、「**日本原子力学会 特別国際シンポジウム**」開催のお知らせです。

**日本原子力学会 特別国際シンポジウム開催のご案内
～断層リスクに向き合う原子力安全のアプローチ～**

日本は地震国であり地震とそれに伴う断層の動きの脅威は重大です。1995年兵庫県南部地震や2016年熊本地震の甚大な被害の記憶は新しいものです。

原子力施設は活断層の直上には設置しないこととし、活断層による地震に対しても安全性を確保しているとしてきました。一方、日本の地盤の成り立ちから、活断層ではなくても、多くの断層(古い断層や破砕部)が存在します。地震の発生により、少なからず地盤が動きます。その動きがどの程度なのか、それに対して施設側がどう対処しているのかが問題となります。継続的な安全性向上に取り組む際に、数多くの活断層が指摘されている日本においては、断層リスクに正面から向き合うことが求められます。断層の動きは自然現象ゆえに不確かさが大きく、学術的にも知見が確定していない技術事項もある中で、如何にリスクを低減し、社会と合意形成を図りながら原子力施設を活用していくかの重要な命題として、議論を進めていく必要があります。

このような問題認識から、海外の専門家を招いて、国内外の取組みや近年の地震から得られた知見などを共有した上で、断層リスクに向き合う原子力安全のアプローチに関わる議論を国際的かつ分野横断で深化させるため、本シンポジウムを開催いたします。

※シンポジウム終了後、基調講演者、日本原子力学会会長上坂 充、座長(東大教授)高田毅士による会見を行います。

日 時:2018年5月31日(木) 13:30～18:00※ (懇親会18:30～20:00)

場 所:東京大学弥生講堂 一条ホール(文京区弥生1-1-1 東大農学部内) <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html>

主 催:日本原子力学会

共 催:日本地震工学会、土木学会原子力土木委員会

後 援:日本建築学会、地盤工学会、日本機械学会、日本保全学会、日本地震学会、日本地質学会、

原子力工学推進連絡会議 原子力構造推進連絡会、日本電気協会、原子力安全推進協会、電力中央研究所

参加費: シンポジウムのみ 3,000円(学生 1,000円)、シンポジウムと懇親会 5,000円(学生 3,000円) (事前登録制)

募集人数:シンポジウム 200名、懇親会 50名

プログラム: (同時通訳付き)

総合司会

糸井達哉(東京大学)

開会 主催者挨拶

日本原子力学会会長 上坂 充

共催者挨拶

日本地震工学会副会長 塩原 等

基調講演1:リスク評価、原子力安全～米国の経験

Dr.Nilesh Chokshi(元NRC規制局エンジニアリング部門副部門長)

基調講演2:断層変位に対する対処事例

Dr.Kevin J. Coppersmith(President; Coppersmith Consulting Inc.)

講演1:地表地震断層、断層変位ハザード

遠田晋次(東北大学国際災害科学研究所)

講演2:断層変位直上や近傍の建物被害

久田嘉章(工学院大学建築学部)

講演3:断層変位に対するリスク評価の取組み

酒井俊朗(電力中央研究所原子力リスク研究センター)

講演4:原子力安全に向き合う姿勢

関村直人(東京大学)

パネルディスカッション

座長 高田毅士(東京大学)

閉会の挨拶

日本原子力学会副会長 駒野康男

本シンポジウムの取材申し込みについて

5月25日(金)までに <http://www.aesj.net/activity/conference/symp20180531> または Fax03-3581-6128 にてお申し込みください。

本件に関する取材等お問合せ先

日本原子力学会事務局 TEL : 03-3508-1261 / E-mail : kikaku@aesj.or.jp